**薩木　永吉 （さつき・えいきち）**

**１、プロフィール**

日大芸術科映画科在学中に脚本、演出を手がけ、太平洋戦後シベリヤに抑留、難病にさいなまれたがラジオドラマの分野で復活、劇団創弦座の脚本執筆など地方演劇に貢献した。

＜生没＞

1923（大正12）年10月27日 ～ 1962（昭和37）年８月20日

＜代表作＞

戯曲「欲たかれ」「天国からの脱出」「破琴」

放送台本「藪と鶯」「ここに光を」「ひば林」『薩木永吉集』

＜青森との関わり＞

北海道札幌市に生まれたが、入隊、敗戦後病いに倒れ、父の死後母の郷里の青森に移住。放送劇作家として出発。

**２、作家解説**

薩木永吉は38年という人生を激しく、しかも果敢に生きた。大正12年10月27日札幌市に生まれ、小学校の頃から絵や文章が得意であった。落語を自作自演して見せ、人を喜ばせたりした。映画、演劇を好んだ彼は昭和17年念願の日本大学芸術科映画科に入学する。昭和18年「天翔ける兵器」と「富岡機銃作動篇」の映画制作で脚本と演出を担当し、理研最優秀賞と佳作賞を受賞、文部省選定映画となった。小津安二郎にも演出家としての才能を高く評価された。順風満帆な彼の道に影を落としたのが太平洋戦争であった。昭和19年召集を受け樺太に入隊。敗戦と共にシベリヤに抑留、重労働に従事、遂に風土病に倒れ全身不随となる。

昭和23年、日本に帰還。京都、東京、札幌など各地の病院に移送され、10月北海道大学病院に入院、脊髄切開の大手術を受ける。しかし、快方に向かわず結局自宅療養となる。これをきっかけにラジオドラマの執筆をはじめＮＨＫ札幌放送局から入賞作を放送。昭和25年父死去。母方の親戚を頼って母と妹と共に青森市鶴ヶ坂に転居。昭和27年ＮＨＫ仙台放送局のドラマ批評文に応募、１位入賞。同年青森市浦町橋本286に転居。ＮＨＫラジオドラマの懸賞に応募した「藪と鶯」が１位入賞して全国に放送された。この頃より地元ＮＨＫやＲＡＢからの脚本の依頼があり、車椅子生活ながら多忙なシナリオライタ－となる。昭和30年４月、妹の結婚を機に渡辺金次郎主宰の創弦座のために「破琴」１幕を執筆、33年「地方演劇」に同人として参加、同誌第２号に１幕物「欲たかれ」を発表、創弦座10周年記念事業の一つとして作られた映画「北の群像－ある地方劇団の記録」の脚本と演出を担当。半年がかりで完成。青森県としては初めての文部省選定映画となる。昭和34年５月「天国からの脱出」を上演。「東奥日報」のラジオ・テレビ評を半年間執筆、昭和36年11月膀胱結石で青森県立中央病院に入院し手術を受ける。翌37年８月20日自宅にて死去。享年満38歳。

**３、資料紹介**

〇『薩木永吉集』

図書

1969（昭和44）年８月１日

180mm×135mm

薩木永吉の作品の集大成である。戯曲「破琴」「天国からの脱出」ほか２編、放送台本「ここに光を」「遭難」ほか２編及び随筆１編、末尾に薩木永吉略年譜を収めてある。序文は「鬼才薩木永吉」と題して創弦座の渡辺金次郎が書き、亀山兵剛が一文を寄せている。

〇『薩木永吉集』

視聴資料（舞台写真）

1956（昭和31）年

60mm×100mm

作者が結婚して間もなくの年、創弦座の公演で自ら演出を担当した。会場は青森県立図書館ホ－ル。